

産地診断による中山間タマネギ産地の再編方策

[要約] 中山間 タマネギ産地である長田地区の産地診断を行った。その結果、機械の導入、機械の共同利用、作型の前進化、ソルゴの作付け、一斉防除等に取り組むと、30～40 a /戸の経営体と150～200 a /戸の大規模経営体の育成ができ、産地目標の出荷量・作付規模を達成した200戸で90haの産地再編が可能である。

総合農林試験場・経営部・経営科	専門	農村計画	対象	葉茎菜類	分類	指導
-----------------	----	------	----	------	----	----

資料名：平成13年度 九州地域試験研究成績・計画概要集（農業経営）

[背景・ねらい]

産地では、産地の維持・発展のため、生産・販売・組織化等に関する目標を設定し、目標達成に向けての取り組みを展開している。目標を達成するには、産地の現状から問題点を抽出し、それぞれの解決策を整理して、これらを体系化する産地診断が有効である。

本研究では、タマネギ産地諫早市長田地区の産地診断の適用事例を紹介する。なお、産地実態データには、各種統計データとアンケート調査結果(1999年7月実施)を利用した。

[成果の内容・特徴]

1. 長田地区のタマネギ作の現状は、ほとんどが傾斜未整備畑のマルチ栽培で、面積63ha、部会員数249戸、作付規模25a/戸、出荷量3,509 tである。また、ソルゴの作付けや一斉防除でタマネギの品質向上対策に取り組んでおり、畑地タマネギ産地としての市場評価は高い。
2. 問題点としては、機械化の遅れ、労働の過重、規模拡大の遅れ、担い手不足、高齢化、早生種の価格安等がある。
3. 産地目標は、作付規模40 a /戸、出荷量5,500 t、超極早生種への作型前進化である。
4. 産地再編方策としては、機械の導入、機械の共同利用、作型の前進化、ソルゴの作付け、一斉防除等の取り組みが有効である。
5. 指導機関の経営的な支援としては、再編方策の検討に向けた実態・意向・問題点の整理、ニーズの明確化、技術の導入定着条件の整理、技術導入の経営評価や経営モデルの提示、産地関係者の現状認識と今後の課題に対する意識の共通化等がある。
6. 指導機関の技術的な支援としては、座談会・講習会・現地検討会による栽培技術の指導、機械実演会による機械化の推進、超極早生の育苗技術の確立等がある。
7. 産地診断の結果、30～40 a /戸の高齢・兼業・複合・現状維持農家並びに150～200 a /戸の大規模経営の育成ができ、産地目標の出荷量・作付規模を達成した200戸で90haの産地再編が可能である。

[成果の活用面・留意点]

1. 中山間タマネギ産地の産地再編に活用できる。
2. 他の野菜産地の産地診断を行う際に利用できる。

【具体的データ】

タマネギを取り巻く環境	<p>■重要野菜(生産出荷安定対象品目)</p> <p>輸入量は生鮮野菜全体の17%(第1位,H12)</p> <p>価格はH10以降、下降傾向</p> <p>開発が遅れていたマルチ栽培対応の移植機が近年開発された</p>	<p>作付面積・収穫量・1人当たり年間購入量は安定</p> <p>輸入占有率5~10%(東京市場)</p> <p>定植・収穫作業は、労働時間・疲労度ともに大</p>		
産地の背景・概況	<p>自然条件</p> <p>平均気温 15.8</p> <p>土質 安山岩が母材の黄色重粘質土壌</p>	<p>社会条件</p> <p>県内市場まで 19km</p> <p>高速線早インター 8km</p>	<p>耕地</p> <p>経営耕地計389ha</p> <p>水田205ha 畑地112ha 樹園地72ha</p>	<p>農家</p> <p>農家数 計46戸</p> <p>専業93戸、1兼76戸、2兼300戸</p> <p>主な農産物 米、ミカン、豚、パレイシヨ、タマネギ</p>

タマネギ栽培の概況

明治34年7名で開始、昭和50年代にマルチ開始
58年に部会設立、長田、諫早、小野、本野の4支部で構成
畑地タマネギ産地としての市場評価高い
作型 超極早生21% 極早生40% 早生32% 中生7%
農家 249戸(295戸)
面積 63ha(72ha)
出荷量 (3509t)
販売額 (236百万円)
()は部会全体

実態・意向・問題点の整理
ニーズの明確化
技術の導入定着条件の整理
技術導入の経営評価や経営モデルの提示
現状認識と今後の取り組みに対する産地関係者の意識の共通化の支援

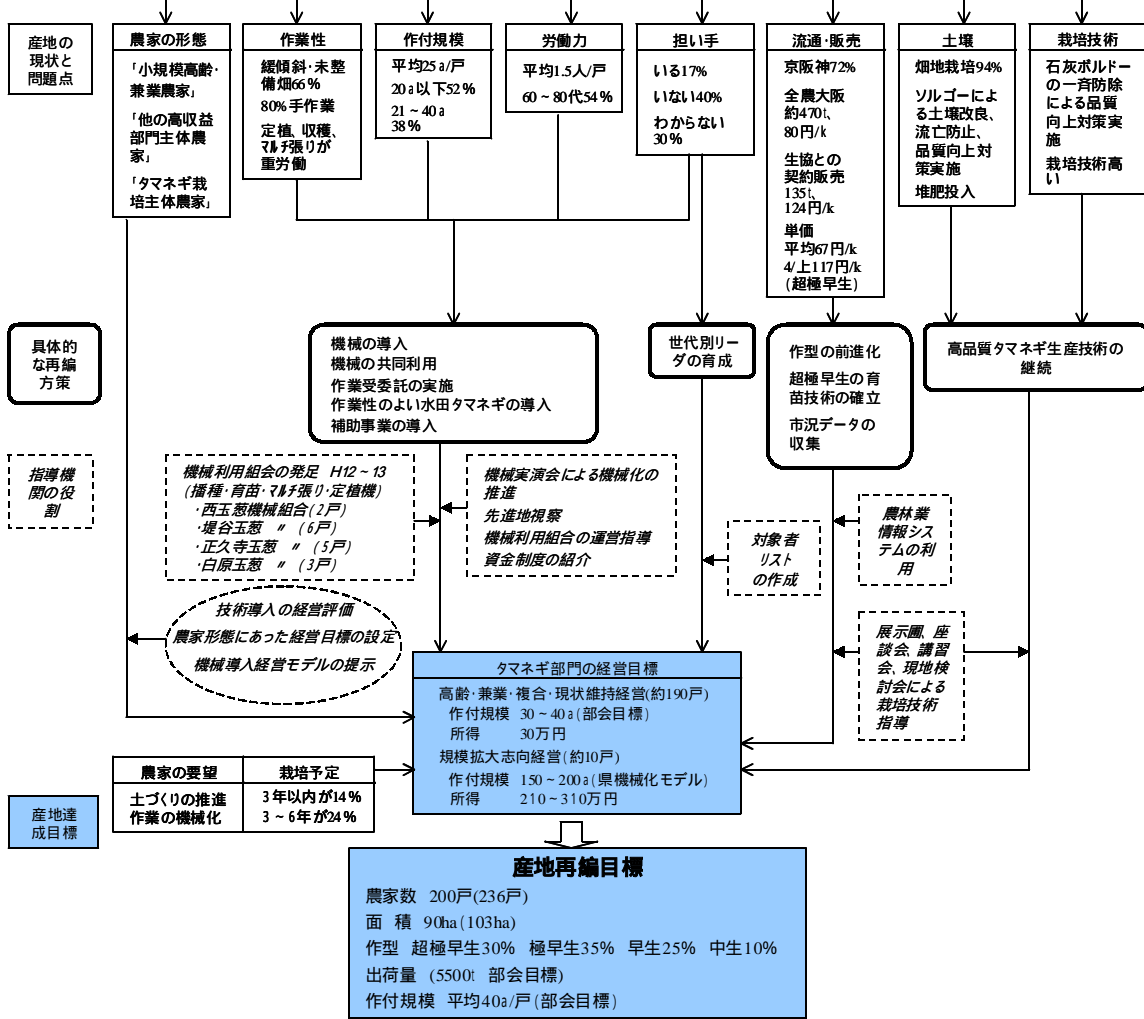


図1 タマネギ産地諫早市長田地区の産地診断表

【その他】

研究課題名：中山間地域資源を活用した省力・低コスト農業技術体系の確立

予算区分：県単

研究期間：平成13年度(平成11~13年度)

研究担当者：鳥羽由紀子、岩坪友三郎

既発表論文等：